平成20年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 キアンコウ

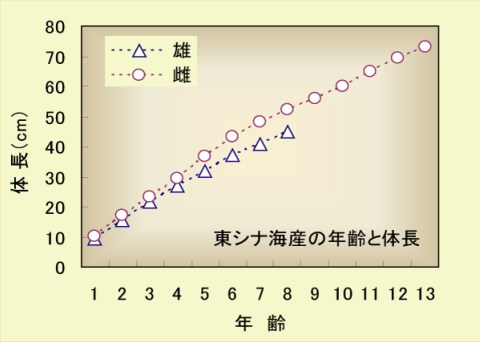
学名　*Lophius litulon*

系群名　太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所

生物学的特性

寿命:　不明
成熟開始年齢:　雄5歳、雌6歳（東シナ海産に関する知見）
産卵期・産卵場:　5～7月、産卵場は不明
索餌期・索餌場:　周年、水深30～400m
食性:　魚類、頭足類
捕食者:　ミズウオ

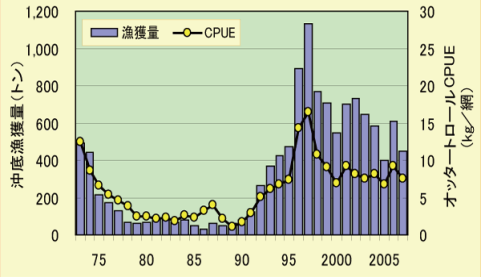


漁業の特徴

キアンコウは太平洋北部海域では沖合底びき網漁業、小型底びき網漁業を主体に、底刺し網や定置網漁業でも漁獲されている。しかし、漁業種類別水揚量資料は十分には整備されておらず、青森県～茨城県の全県で漁業種類別にキアンコウの漁獲量が把握できるのは2000年以降である。福島県や茨城県では1990年頃から水揚量が増加している。また、水揚げされたキアンコウの体長組成から未成魚を主体に漁獲していると推定される。

漁獲の動向

沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書に基づく漁獲統計資料によると、漁獲量（襟裳西海区を含めた数値）は1973年の492トンから1978～1989年には80トン以下の低水準に減少した。1991年以降は急激に漁獲量が増加し、1997年に1,133トンに達した。1999年には707トンに減少したが以後400～730トンで推移している。2005年に397トンに減少、2006年は607トンに増加、2007年は450トンに減少している。2003年以降では減少傾向である。

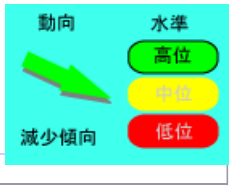


資源評価法

各県調査による漁業種類別の水揚量と、1973年から資料がある沖合底びき網漁船の漁獲成績報告書に基づく漁獲量の動向から資源状態を判断した。

資源状態

沖合底びき網による漁獲量は1991年以降急増し、1997年には1,133トンと最高値となった。1998年には減少し、その後400～730トン程度で推移している。2003年以降は減少傾向である。青森～茨城の漁業種類別漁獲量の合計値は、1997年以降は2000年を除き1,000～1,500トンで推移している。2007年は全県で減少し、数値が得られている2000年以降では2番目に低い1,187トンとなった。全県合計の漁獲量も2003年以降は減少傾向である。沖合底びき網のCPUEは1970年代とほぼ同じ比較的高い水準にある。従って、資源水準は高位で、資源動向は減少と判断される。



管理方策

現在の資源は高水準ながら近年減少傾向と考えられるため、現状の資源水準をこれ以上減少させないことを管理目標とし、現状の漁獲を若干下げる。ABClimitは2005～2007年の漁獲量の平均値に0.9を乗じ、ABCtargetは、さらに0.8を乗じた値とした。単価の低い産卵期(5～7月)における産卵親魚を保護することを検討する必要がある。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,170トン	0.9Cave3-yr	－	－
ABCtarget	930トン	0.8・0.9Cave3-yr	－	－

- ABCは10トン未満を四捨五入した値

資源評価のまとめ

- 沖合底びき網漁船の漁獲量は1991年に急増、1998年以降は比較的高い水準で安定、2003年以降では漁獲量は減少傾向
- 青森～茨城の漁業種類別漁獲量の合計値は、1997年以降は2000年を除き1,000～1,500トンの高い水準で推移している
- 漁獲物の多くが未成魚

管理方策のまとめ

- 現状の資源水準をこれ以上減少させない
- 成長乱獲を避けることが必要
- 単価の安い産卵期(5～7月)の産卵親魚の保護が必要

資源評価は毎年更新されます。